

第 3 章

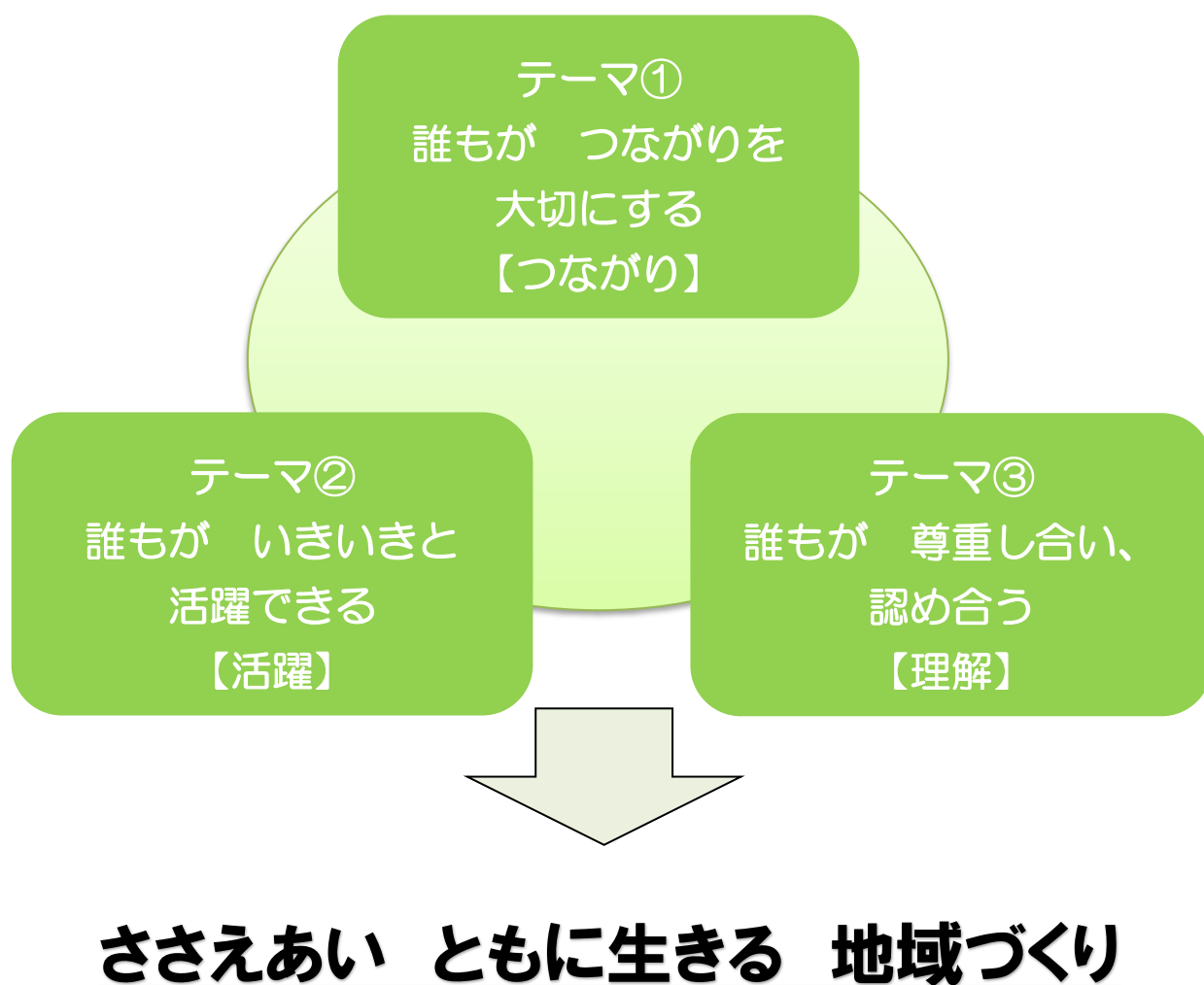
基本目標と基本方針

1 計画推進のテーマと基本目標

子ども、若者、子育て世代、高齢者、障がいのある人、生活困窮者等、誰もがともに暮らす地域社会において、私たちはそれぞれに多様な課題を抱えています。個人の力では解決できない生活課題や悩みの解決のためには、住民をはじめ地域社会を構成するあらゆる人が主体となって、協力しながらその解決に向けて行動していくことが必要です。

本計画では、住民相互の理解と尊重を基調としながら、つながりを深める支えあいによって、誰もが生きがいを感じながら自分らしく役割を担い、活躍できる地域社会を目標にしなければなりません。

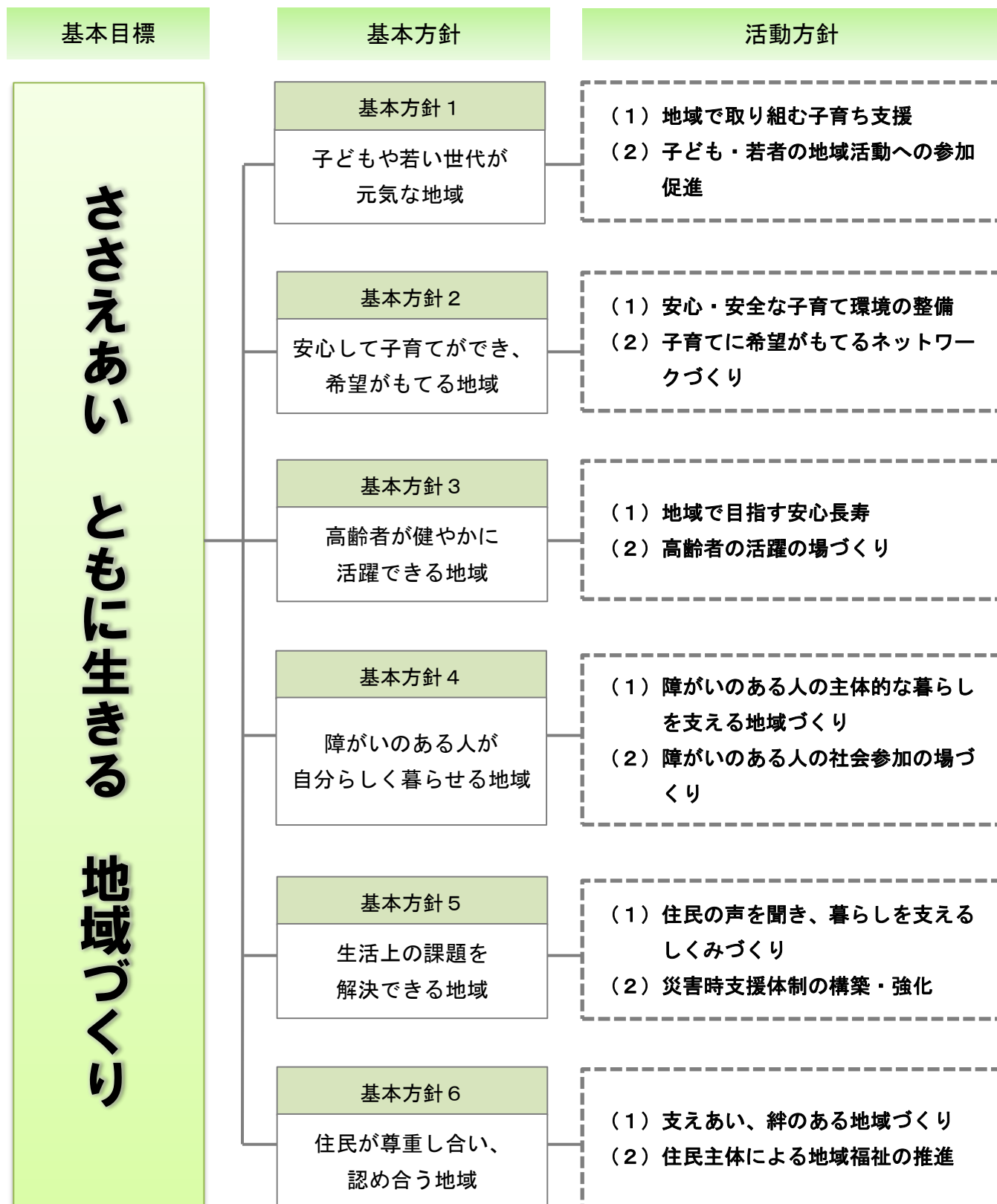
このため、本計画においては津市の現状と課題から導き出された3つのキーワード「つながり」「活躍」「理解」を基に、以下の3つを計画全体のテーマとして展開します。そのうえで前計画の基本目標である「ささえあい ともに生きる 地域づくり」を引き続き本計画の基本目標とします。



2 第3次津市地域福祉活動計画の体系

計画を進めるうえでの3つのテーマ：

誰もがつながりを大切にする——誰もがいきいきと活躍できる——誰もが尊重し合い、認め合う



3 今後5年間で取り組む重点活動

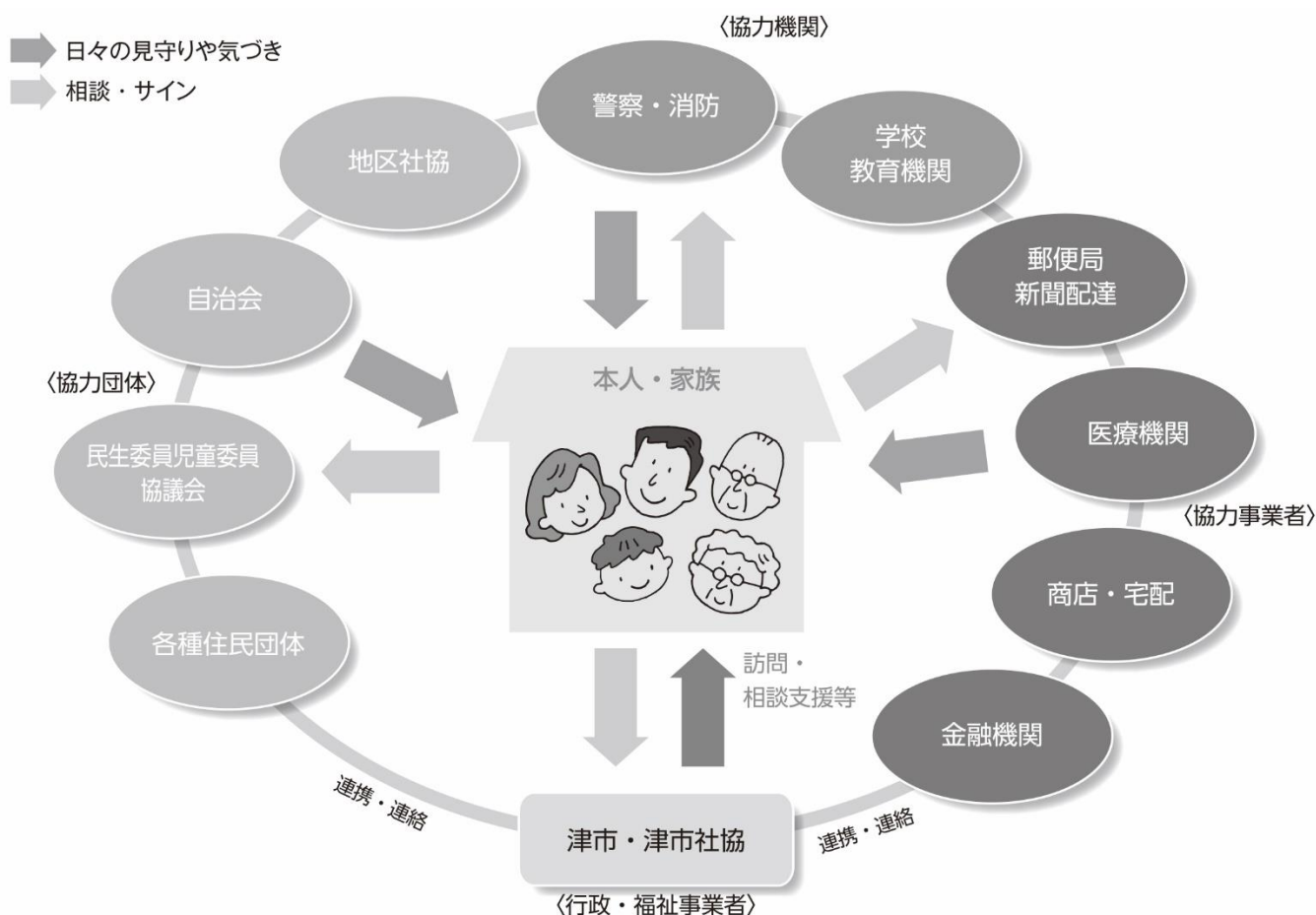
地域福祉の推進にあたっては、住民一人ひとりの意識の向上や地区社協、民生委員・児童委員、自治会、ボランティアなどの地域活動をさらに活性化するとともに、個人や地域では解決できないことについては、公的機関が支え、地域とともに解決ができるよう連携、協働する必要があります。これらのことから、本計画では次の3つを重点活動に掲げ、特に力を入れて取り組みます。

（１）地域における見守り体制を充実します【つながり】

地域では、認知症高齢者をはじめとして、見守りや手助けを必要とする人が増える一方で、地域のつながりや関係は希薄化し、地域活動の担い手が不足しています。

地域での支えあいを進めるためには、地域の人々の声かけや見守り活動等を通じて、困りごとを抱えている人や何らかの異変に、いち早く気づけるよう、地域のつながりを深めることが大切となります。そこで、研修会を津市や地区社協、民児協等の関係機関・団体と協働して開催し、日々の見守りなどを行う地域活動の担い手を育成するとともに、地域における見守り体制の充実を図ります。

地域における見守り体制のイメージ



(2) 誰もが主体的に生きていけるよう支援します【活躍】

知的障がい・精神障がいのある人や認知症高齢者等、判断能力が十分でない人に寄り添いながら権利を擁護し生活支援（個別支援）を行うことは、社会福祉協議会の重要な役割です。

特に日常生活自立支援事業については、相談件数が増加しているため、人員を確保しつつ重点的に事業の推進を図ります。また、生活困窮者自立相談支援事業¹⁰や成年後見サポートセンター事業¹¹については、関係機関・住民に更なる周知・啓発を行い、潜在的なニーズに対応します。

これらの活動により住民の主体的な生活を支援するとともに、若者への地域福祉活動の啓発やふれあい・いきいきサロンなど、活躍の場を継続的に提供します。また、経済的な理由及び公共交通機関の利用が困難な障がいのある人や高齢者の外出の支援を充実し、誰もが地域のなかでいきいきと活躍できるよう取り組みを進めます。



サロンレク講習会



ボランティアコーディネーター養成講座



¹⁰ 生活困窮者自立相談支援事業：生活困窮者が抱える多様で複合的な問題について相談に応じ、さまざまな支援を一体的かつ計画的に行うことで自立の推進を図る事業

¹¹ 成年後見サポートセンター事業：認知症、知的障がい、精神障がいなどにより日常生活の判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らせるよう、成年後見制度の利用を支援し、また、対象者の権利擁護ができる相談支援体制づくりを行う事業

(3) 誰もが福祉について考える機会を設け、活動につなげます【理解】

これまで、主に小学校や中学校等の学校と話し合う機会をもち、車いす体験や高齢者疑似体験を通して、誰もがお互いの存在を認め合うことや自分たちにできることを考え、「みんなにやさしいまちづくり」について学ぶ福祉教育を進めてきました。

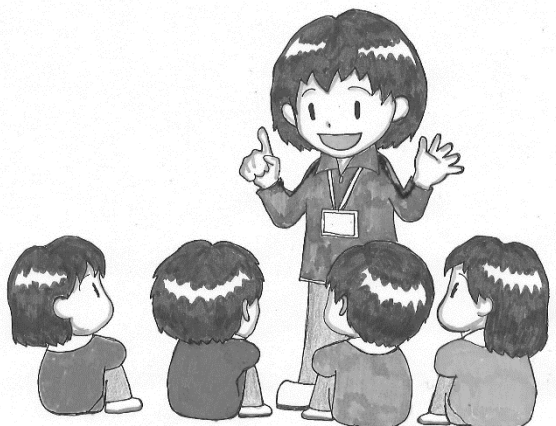
これからは、地域に住む誰もがお互いにその存在を認め合い、偏見や差別を許さない力を身につけ、社会生活のなかで支えあい、一人ひとりが地域で生きる喜びを味わえるよう「ともに生きる力」を育む必要があります。

住民一人ひとりが自分の住むまちの課題を知り、課題解決策を学び合う機会をつくり、住民自身が地域福祉の支え手・担い手となるような地域づくりを進めるための地域福祉教育も必要となってきます。

今後、子どもを対象とした学校における福祉教育を継続して進めるとともに、福祉協力校を指定し各学校における福祉教育を支援します。また、地域福祉の担い手となる理解者を増やすために、地域課題・生活課題への気づきと理解促進を目的とした研修会や講演会、地域福祉活動への参加促進を目的とした交流会等を関係機関・団体と協働して開催し、あらゆる人の活動の拡大につなげます。



福祉出前講座



第4章

施策の展開

●基本方針1●

子どもや若い世代が元気な地域

津市においても、地域によって急速な少子化や、地域と若い世代の関係の希薄化が課題となっています。しかし、子どもや若者がともに役割を担い地域で活躍することは、地域の未来に活力と希望を与えます。地域の支えあいのなかで子どもたちが健やかに育ち、若者が地域に誇りと愛着をもてるよう、取り組みを進めます。

活動方針（1）

地域で取り組む子育て支援

～子どもの健やかな育ちを支えましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・子どもたちの課題が見いだせるよう、子どもたちの声に耳を傾ける機会が必要です。
- ・子ども会の重要性が見直されています。
- ・子どもたちが安心して遊べる場を増やすことが求められています。

②アンケート調査から

- ・希望する地域の福祉活動として「子どもの相手」を「やってみたい・できる」という意見が少なくなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・児童虐待相談対応件数が増えており、子どもの人権が十分に理解されているとは言えません。
- ・子どもが一人の人間として尊重されるよう啓発が必要です。
- ・地域において、子どもの居場所（子ども同士が集う場所）が少ない状況です。
- ・大人たちが子どもの問題や支援方法について学び、子どもに寄り添うことが必要です。
- ・子どもがいきいきと過ごせる環境づくりのために、子どもが生活する地域の住民の意見を聞き、学校や子育て支援センター¹²などの関係機関と課題や方向性を共有する必要があります。

●方向性●

子ども自身を主体として捉え、一人ひとりの子どもの声に耳を傾け、地域一体で子どもの健やかな育ちを支えます。

¹² 子育て支援センター：子育て中の親と子が気軽に集い相互交流ができる場として市内19か所に開設。保育士による子育ての不安や悩みについての相談等も実施

●それぞれの役割●

住民一人ひと	○子どもたちは生まれ育った地域に誇りをもち、地域の人に元気にあいさつをしましょう。 ○大人は子どもの声に耳を傾け、子どもの健やかな育ちを見守りましょう。
地 域	○子どもの育ちについて、地域みんなで関われるしくみをつくりましょう。 ○子どもも含め、誰もが学び合える機会をつくりましょう。
津市社協	○子どもたちが地域でいきいきと過ごすことができるよう、住民や関係機関と課題や方向性の共有を図りながら、環境づくりや居場所づくりを支援します。 ○学校や地域と協働して、子どもたちへの福祉の理解を推進します。

●地域の取り組み提案●

提案① あいさつ運動の推進	⇒ 子どもも大人も声をかけ合い、あいさつができる関係を築くことによる、つながりのある地域づくりへの取り組み
提案② 子どもの居場所づくりの推進	⇒ 地域での健やかな子どもの育ちを支えるため、場所や活動内容を工夫し、子どもが参加しやすい居場所づくりを推進
提案③ まちの見守り隊	⇒ 登下校時の見守りや、日中在宅している乳幼児と親を訪問するなど、子どもを「一人にしない」、親子を孤立させない活動

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
地域福祉教育推進事業	家庭・学校・地域において、地域の生活課題や福祉課題の解決に向けた地域福祉教育を推進し、次代を担う福祉人材の育成を進めます。
子育てサロン ¹³ の支援	地域の身近な場所で健やかな子どもの育ちを支える場所として子育てサロンの立ち上げ・継続の支援を行います。

¹³ 子育てサロン：子育て中の保護者やその子どもが仲間と集い、交流する場

● 目指す成果指標 ●

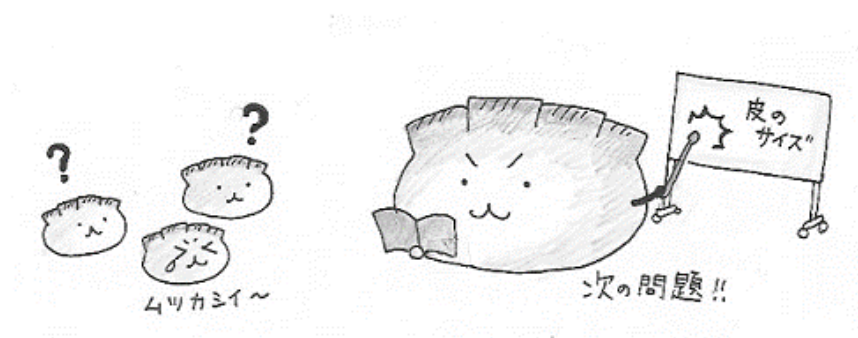
指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
福祉出前講座開催 数・受講者数	31回 2,381人	40回 2,600人	50回 2,800人	55回 2,900人	60回 3,000人	65回 3,100人



福祉出前講座



子育て支援推進事業



活動方針（2）

子ども・若者の地域活動への参加促進

～子ども・若者の活躍できる場づくりを進めましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・多くの若者が地域から転出する現状にあります。
- ・地域によって若い世代の夫婦が少なく、子どもが少なくなっています。
- ・地域活動の後継者や伝統行事の担い手が不足しています。
- ・世代間交流が少なく、各世代と若年者層との接点が少なくなっています。
- ・若い世代の課題を地域で共有しにくい状況です。

②アンケート調査から

- ・若者に、地域福祉に関する情報が十分に行き届いていません。
- ・地域において若者が担うことのできる役割や居場所が求められています。
- ・若者が関心をもてる役割や、若者の存在感を高める工夫が必要です。
- ・地域における問題点として、「活動する人（特に若年層）の確保が難しい」とする割合が高くなっています。
- ・これからの地域づくりを進めるにあたり、重点を置くべきこととして、「地域を支える人材育成」の割合が高くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・地域で子ども・若者が活躍できるよう、学校・地域・家庭の連携を深める必要があります。
- ・各地域で増加する空き家を活用し、若者の転入を促進する必要があります。
- ・一人暮らしの若者が気軽に相談できる窓口等が求められています。

●方向性●

子どもや若者が地域に関心をもち、主体的に地域活動に参加できるよう環境を整えることで、活力のある持続した地域福祉の推進を目指します。

●それぞれの役割●

住民一人ひとり	○世代間交流の機会や地域の伝統行事等に気軽に参加してみましょう。 ○若い人の意見や要望に耳を傾け、互いに声をかけ合いましょう。 ○地域で新しく生活をはじめる若者を応援しましょう。
地 域	○若者が活躍できる機会や場づくりに努めましょう。 ○学校・地域・家庭の連携強化を進めましょう。
津市社協	○地域福祉活動への若者の参加を促進します。 ○若者に対し、地域福祉についての啓発を進めます。

●地域の取り組み提案●

提案① 若者のグループ立ち上げ支援	⇒ 若者が集い、就労や結婚の悩み、趣味のことなどを気軽に話すことができる場づくりを支援
提案② 地域のつながりづくり	⇒ 地域のイベント実行委員会や伝統行事の運営メンバーとして若者に声をかけ、世代を超えてともに活動できるようつながりづくりに向けた取り組み
提案③ 若者の相談窓口の設置	⇒ 若者のさまざまな悩みなどの相談支援を進めることによる、若者が地域とつながり、生活しやすい環境づくり

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
若者への地域福祉活動の啓発	地域福祉に関する取り組みや事業について、SNSなどを通じた分かりやすい情報提供に努めます。

●基本方針2●

安心して子育てができ、希望がもてる地域

家庭を取り巻く社会のさまざまな変化に伴い、子育て中の孤立や経済的困窮等、子育て世代の不安は大きく、また多様化しています。安心して子どもを産み、育てられる環境整備、相談支援の充実や世代間交流による孤立防止等、地域で親身に子育てに関わり、見守り合う機運を高め、希望をもって子育てができる地域づくりを進めます。

活動方針（1）

安心・安全な子育て環境の整備

～安心できる子育て環境をつくりましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・子育てサロンへの参加者が少ない状況です。
- ・通学・通園時の安全対策が課題となっている地域があります。
- ・小学生の登下校時における見守り活動の強化が求められています。

②アンケート調査から

- ・子どもたちの安全について、小学生の登下校時の見守り活動の大切さを指摘する声が多くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・子育てに関する相談窓口が設置はされているものの分かりづらく、情報を求めている人に必要な情報が十分に届いていない現状があります。
- ・一人親の働く場所やキャリアデザイン¹⁴についての悩みや困りごとがあるはずですが、相談者が少ない状況となっています。

●方向性●

地域における子どもの見守りの強化や、子育てに関する相談支援・情報発信の充実等により、安心して子育てができる環境づくりを進めます。

¹⁴ キャリアデザイン：自らの職業人生を主体的にデザイン（構想・設計）すること

●それぞれの役割●

住民一人ひと	○日頃から子どもに対する見守りなど、一人ひとりが子どもの安全に注意を向けましょう。
地 域	○通学時等の見守りの充実等、子どもが安心して暮らせる地域づくりに努めましょう。
津市社協	○子育て家庭への相談対応窓口の充実や、子育て支援情報の発信・充実に努めます。

●地域の取り組み提案●

提案① 子どもの見守り活動の推進	⇒ 普段の生活のなかで、子どもの見守りや声かけなどを行い、子どもたちの安全を確保し、健やかに成長できる環境づくりに向けた取り組み
提案② 子育て家庭が相談しやすい地域づくり	⇒ 地域で開催している子育てサロンの周知や、誘い合いなどを通じた、子育て家庭が地域で相談しやすい関係づくり

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
子育て支援情報等の発信・充実	子育てに関する支援や一人親家庭への支援の方向性について関係団体・機関と共有し、必要な情報の発信・充実に努めます。
子育て支援推進事業	異世代の人が子育てに関わるきっかけとなる交流会を関係機関・団体と連携・協働して開催します。また、地域の実情に応じた子育て支援事業が継続的に行われるよう、地域と一体となって取り組みます。

活動方針（2）

子育てに希望がもてるネットワークづくり

～地域ぐるみで子育てに不安をもつ家庭を支援しましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・子育て支援センターや広場が近づくなく、子育て世代のつながりが少ないことが課題となっている地域があります。
- ・子ども会への入会者が少なくなっています。

②アンケート調査から

- ・一人親世帯や、地域とのつながりが希薄な世帯への配慮や支援が必要です。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・発達障がい¹⁵のある人の、それにとまなう生活のしづらさがあることがあまり知られていません。
- ・三世代交流の機会等が少なくなっています。
- ・子ども会が減少していくなかで、地域との関わり方が難しいという意見があります。

●方向性●

子育てに不安をもつ家庭に対して、交流会等の開催を通じて、地域で孤立することなく、希望をもって子育てができるよう、地域一体で取り組みます。

●それぞれの役割●

住民一人
ひとり

- 子ども会等の集まりや行事等に気軽に参加してみましょう。
- 子育ての不安や心配を一人で抱え込まないようにしましょう。

地 域

- 子育て家庭への声かけや支援に努めましょう。

津市社協

- 子育てに関する情報を共有できるネットワークづくりを支援します。
- 発達障がいなどに対する地域への理解を進めます。
- 子どもの発達に不安のある保護者等の居場所づくりを推進します。
- 子育て支援ボランティアや子育て支援センターなどと連携し、地域のなかで子どもを見守ることができる環境づくりを推進します。

¹⁵ 発達障がい：通常低年齢において現れるさまざまな症状。コミュニケーション能力の発達に偏りがあるなどの特徴がみられる。

●地域の取り組み提案●

提案① 子育てネットワーク活動の促進	⇒	子どもと子育て中の親が地域で孤立しないよう、見守りや居場所づくりを進めるための、子育てネットワーク活動の促進
提案② 子育てサロンの推進	⇒	子育ての楽しみや不安を共有し、地域で安心して子育てができるよう仲間づくりを行う子育てサロンの推進

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
地域ぐるみで子育てできる体制づくり	子育て支援センターと連携して地域のニーズなどの把握に努め、既存の団体が子育て支援に関わるきっかけとなるようなコーディネート機能の充実や、関係機関との協働による子育て支援ボランティアの育成に取り組みます。
子どもの発達に不安のある保護者等の交流会の開催	子どもの発達に不安のある保護者等を地域のなかで見守ることができるよう、関係団体と連携して交流の推進に努めます。

●目指す成果指標●

指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
子どもの発達に不安のある保護者等の交流会の開催数・参加者数	5回 149人	5回 150人	6回 180人	6回 180人	7回 210人	7回 210人

●基本方針3●

高齢者が健やかに活躍できる地域

高齢者が自分らしく健康に、安心して過ごすことができる環境づくりを進めます。また、支える側・支えられる側という意識を固定せず、その知識や技術、経験を生かして、地域福祉推進における主体のひとつとして活動することが求められています。高齢期の不安や悩みを地域が十分に理解し、高齢者がいきいきと活躍できる地域づくりに向けて、取り組みを進めていきます。

活動方針（1）

地域で目指す安心長寿

～住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいとなる地域づくりに努めましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・高齢者の一人暮らしや、高齢者夫婦のみの世帯が増えている地域が多くあります。
- ・高齢者の通院や買い物等の移動手段の確保が課題となっている地域があります。
- ・運転免許返納後の移動手段に対する心配の声があがっています。
- ・高齢者の交通安全が地域の問題となっている地域もあります。
- ・見守りの必要な認知症の人がいる地域もあります。

②アンケート調査から

- ・後期高齢者に福祉情報が行き届いていない現状がみられます。
- ・日々の暮らしのなかで感じる不安や悩みとして、「自分・家族の老後のこと」に次いで、「自分・家族の健康のこと」が高くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・孤立する高齢者が増加しています。
- ・困りごとについてSOSを出すことができない（「助けて」とうまく言えない）人が多いです。
- ・高齢期の身体機能の低下や認知症等について、地域の理解が十分でない状況があります。
- ・高齢者が高齢者を支える地域づくりに努める必要があります。

●方向性●

高齢期に起こりやすい不安や悩みについて地域が十分に理解し、高齢になっても安心して地域で暮らしていけるよう取り組みを進めます。

●それぞれの役割●

住民一人ひとり	○日頃から、バランスのとれた食生活や適度な運動等健康づくりに努めましょう。 ○壮年期からの積極的な健康づくりに努めましょう。 ○一人暮らし高齢者や認知症高齢者の見守りに努めましょう。
地 域	○健康づくりのためのウォーキングや健康体操等を広めましょう。 ○料理教室等の開催により、健康的な食生活の普及に努めましょう。 ○ヘルスボランティア¹⁶活動の活性化に努めましょう。 ○認知症等高齢期の困りごとや心配ごとについて、理解を深めましょう。
津市社協	○ふれあい・いきいきサロンなどの活動を通じて、高齢者の居場所づくりやつながりづくりに努めます。 ○介護予防教室や元気アップ教室¹⁷を通じて、介護予防に努めます。 ○身近なところで健康づくり活動ができるよう、機会の充実に努めます。 ○認知症等高齢期の困りごとや心配ごとについての理解を深めるよう、地域への啓発を進めます。 ○日常的な見守り活動を充実させます。

●地域の取り組み提案●

提案①	健康づくりウォーキング ⇒ 健康づくりに効果が期待できるウォーキングの普及と啓発の普及
提案②	「いきいき百歳体操」の普及 ⇒ 要介護状態に陥ることなく、健康な生活を送れるよう、安全かつ効果的な運動メニューとして開発された「いきいき百歳体操」の普及と啓発
提案③	認知症見守り模擬訓練の実施 ⇒ 認知症の高齢者への声かけを想定した模擬訓練を実施することで、見守りの大切さや適切な声かけの方法を学び、住民の認知症への理解を深めるための取り組み

¹⁶ ヘルスボランティア：個人や家族の健康づくりに関心をもつ人が、健康づくりに関するさまざまな知識をもとに地域での健康づくり活動の推進を図るボランティア

¹⁷ 元気アップ教室：要介護状態になることを予防するために、体力測定や毎日自宅でも実践できる元気アップ運動、健康な毎日を過ごすための講話等を行う教室

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
ふれあい・いきいきサロン事業	助けあえる仲間づくり、生きがいづくり、介護予防、閉じこもり予防等を目的とした、高齢者が地域で集えるふれあい・いきいきサロンを推進します。
外出支援サービス事業	外出することが困難な高齢者や障がいのある人の住み慣れた地域での安心した生活を支援するため、行政機関や医療機関等への送迎を行います。
介護予防事業	高齢者が、要介護状態になることを防ぐとともに、地域で自立した生活ができるよう介護予防教室や元気アップ教室を行います。
生活支援コーディネーターによる支援体制の強化	地域におけるニーズを把握し、ふれあい・いきいきサロンや見守り活動等を通じて、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進します。
高齢者地域ケア体制推進事業	地域見守りネットワークを構築しながら、住民の福祉意識の高揚や福祉力の向上を図ります。
要援護者対策地域見守りネット活動事業（絆のバトン事業）	冷蔵庫に緊急連絡先やかかりつけの医療機関の情報、服薬状況等をあらかじめ記録した用紙を保管しておくための「絆のバトン」を配布し、一人暮らし高齢者等の不安軽減を図るとともに、日常的な見守り活動へと繋げていくように取り組みます。

●目指す成果指標●

指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ふれあい・いきいきサロンの開催数・参加者数	4,315回 77,495人	6,000回 96,000人	6,050回 96,500人	6,300回 104,000人	6,500回 109,000人	6,600回 110,000人
外出支援サービス事業利用件数	165件	250件	400件	450件	500件	550件
生活支援コーディネーター支援回数	1,949件	2,300件	2,350件	2,400件	2,450件	2,500件
絆のバトンの利用者数	3,730人	4,500人	4,600人	4,700人	4,800人	4,900人

活動方針（２）

高齢者の活躍の場づくり

～高齢者一人ひとりが役割をもって、いきいきと活躍できる場をつくりましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・老人会役員のなり手がいなくなっています。
- ・高齢化により、空き家や耕作放棄地が増えています。
- ・高齢者（特に男性）で引きこもりがちな人が多くみられます。

②アンケート調査から

- ・サロンの運営者（スタッフ）及び参加者の平均年齢は60歳以上が9割以上を占めています。
- ・サロンで困っていることとして「参加者の固定化」が最も高くなっています。
- ・地域の福祉活動として「話し相手、心配ごとの相談相手」なら「やってみたい・できる」という意見が多い結果となっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・活動の担い手と参加者の役割が固定化され、特定の人に負担がかかってしまう傾向がみられます。
- ・高齢者の知識や技術を生かす場が少ない状況があります。
- ・主体的に行動することが難しい高齢者が多い状況があります。
- ・60歳代男性の地域活動への参加が少ない状況にあります。

●方向性●

高齢者一人ひとりが役割と生きがいをもち、住み慣れた地域のなかでいきいきといつでも活躍できるよう、交流と活動の場づくりを推進します。

●それぞれの役割●

住民一人ひとり	○ふれあい・いきいきサロンや地域活動に気軽に参加してみましょう。 ○蓄積した知識や技術を、地域づくりに生かしましょう。 ○若い世代も高齢者と交流をもち、地域づくりをともに進めましょう。
地 域	○人生経験豊かな高齢者の活躍の場づくりに努めましょう。 ○ふれあい・いきいきサロンを継続して実施し、更なる充実拡大を図りましょう。
津市社協	○ふれあい・いきいきサロンの輪を広げ、参加者一人ひとりが主体的に関わることができるよう意識の啓発を進めます。 ○地域活動における担い手の育成だけでなく、役割を担うことができる人の発見と把握に努めます。 ○さまざまな知識や技術をもつ高齢者が活躍できる場づくりを進めます。

●地域の取り組み提案●

提案① 生きがいのための サークル活動	⇒ 退職した住民の生きがいづくりや仲間づくりができるサークルの立ち上げや活動への支援
提案② 高齢者の社会参加・社会貢 献のための情報共有	⇒ 社会参加・社会貢献の機会を得ることができるよう、ボランティアの情報等を地域で共有
提案③ 高齢者が活躍できるしく みづくりの推進	⇒ 地域の知人同士で声をかけ合い、サロンや地域行事等において高齢者の知識や経験・特技等を生かすことで、地域の活動をより豊かなものとするための取り組み
提案④ 地域における語り部	⇒ 地域の伝説や昔話、生活様式等について、高齢者から子どもや若い世代に話す語り部の発掘
提案⑤ 高齢者と子育て世代の交 流	⇒ 高齢者と子育て世代が互いに交流する機会をつくることで、高齢者と子ども、子育て世代がともに過ごし、見守り合える居場所づくりを推進

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
ふれあい・いきいきサロン事業	高齢者一人ひとりが生きがいや役割をもって生活できるよう、ゲーム、健康体操、料理や季節の行事等を通じて、主体的に参加できるふれあい・いきいきサロンを推進します。
社協ほっとサービス事業	住民の困りごとや不安に対し、地域の助けあいや支えあいで解決を図れるよう取り組みます。また、高齢者が担い手としてますます活躍できるよう、検討を進めます。



●基本方針4●

障がいのある人が自分らしく暮らせる地域

障がいの有無に関わらず、自分らしく暮らせる地域づくりを進めるという考え方が浸透してきています。誰もが互いに認め合い、障がいへの理解を深め、ともにいきいきと暮らせる地域づくりに向けて、取り組みを進めていきます。

活動方針（1）

障がいのある人の主体的な暮らしを支える地域づくり

～誰もが自分らしく暮らせる地域にしましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・障がいのある人や障がいへの理解を深め、偏見や差別がない地域にする必要があります。
- ・公共交通機関が利用できない人等買い物や通院等の移動支援が必要です。
- ・障がいのある人に、福祉や地域の情報が十分に行き届いていない状況がみられます。

②アンケート調査から

- ・これからの地域づくりを進めるにあたり、「高齢者や障がいのある人への見守り活動の充実」を重点にすべきという意見が多くなっています。
- ・障がいのある人の社会参加を促すために重要なこととして「地域の偏見をなくし、理解を得ること」や「外出支援サービスなどを充実し、外出しやすくすること」などの意見が多くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・障がいへの理解が進んでいないために、障がいのある人の生活の「しづらさ」が理解されず、地域で安心して暮らせない現状があります。
- ・障がいのある人の地域での生きづらさを理解することが必要です。
- ・障がいについて、津市社協と津市や関係機関・団体が協力して住民に理解が広がるよう地域で具体的な啓発に努めることが必要です。
- ・障がいのある人との相互理解を深めるための交流の機会づくりが必要です。

●方向性●

障がいに対して地域で理解を深め、誰もが互いに交流し、自分らしく暮らすことができる地域づくりに取り組みます。

●それぞれの役割●

住民一人
ひとり

- 障がいのある人や障がいへの理解を深めましょう。
- 障がいの有無に関わらず、誰もが互いに交流を深めましょう。
- 外出支援や見守りなどのボランティア活動に参加してみましょう。

地 域

- 誰もが交流できる場づくりを進めましょう。
- 障がいの有無に関わらず、互いの個性や生き方を尊重し合える地域づくりを進めましょう。

津市社協

- 障がいに対する正しい理解と啓発に努めます。
- 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らせるよう、外出支援サービスなどのニーズの把握と体制強化に努めます。
- 障がいのある人が地域で自立した日常生活が送れるよう、関係機関と連携して相談支援等を充実します。

●地域の取り組み提案●

提案①

障がいのある人と地域を
つなげる取り組み

⇒

ふれあい・いきいきサロンの場等を活用し、障がいの有無や世代、性別に関わらず、障がい者団体や住民がともに活動するための、理解を深め合える機会や場づくり

提案②

障がいへの理解の促進

⇒

地域において障がいについての正しい理解を促進するための、学びの機会や場づくり



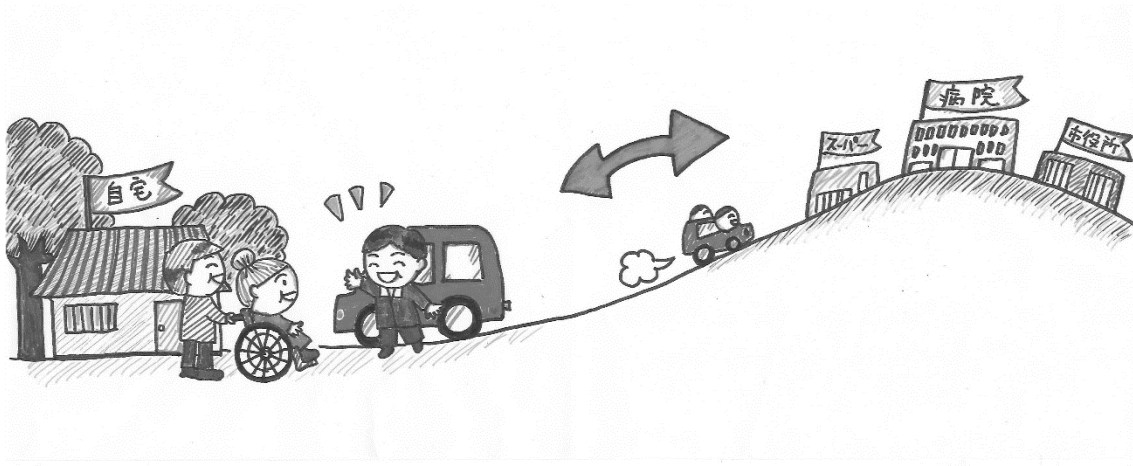
車いす体験講座

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
障がいについての理解と啓発	障がいのある人とその家族が必要な生活支援の情報を受け取れるように、また、地域に理解が広まるように、関係機関と連携し啓発します。
障がい者団体との懇談会	障がいのある人とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、障がいのある人を取り巻く現状と課題について話し合うため、障がい者団体と関係者の懇談会を開催します。
外出支援サービス事業	外出することが困難な高齢者や障がいのある人の住み慣れた地域での安心した生活を支援するため、行政機関や医療機関等への送迎を行います。
障がい福祉サービス事業	住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、サービスを必要とする人のニーズに応じて、関係機関と連携し、福祉サービスを提供します。
声の広報発行事業	ボランティアの協力を得て、視覚に障がいのある人等を対象に、広報等の情報をCDに録音し、地域の情報を提供します。
点字シール作成事業	視覚に障がいのある人に対して、郵便物の発信者が分かるように、ボランティアの協力を得て封筒に貼付する点字シールを作成します。

●目指す成果指標●

指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外出支援サービス事業利用件数	165件	250件	400件	450件	500件	550件



活動方針（2）

障がいのある人の社会参加の場づくり

～誰もが自分らしさを生かせる場づくりを進めましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・地域活動の場に、障がいのある人の参加が少ない状況にあります。
- ・障がい福祉関係団体の会員数の減少や担い手不足により、将来の活動が難しくなることが危惧されています。

②アンケート調査から

- ・当事者アンケートにおいて、障がいのある人が参加できるサロンが地域にあることを「知らない」「わからない」とする人が7割を超えています。
- ・障がいのある人の社会参加を促すため重要なこととして「いっしょに活動する仲間をつくること」「気軽に集まれる場所をつくること」という意見がそれぞれ3割程度みられます。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・障がいのある人の社会参加を促すことができる環境づくり、交流の場が必要です。

●方向性●

障がいのある人が、それぞれの個性を生かして、地域のなかで主体的に社会参加できるよう、環境整備や機会づくりに取り組みます。

●それぞれの役割●

住民一人ひと

○障がいの有無に関わらず、地域のイベントなどにおいて企画立案や開催運営に関わってみましょう。

地 域

○誰もが参加しやすい地域活動について、みんなで考えてみましょう。
○障がいの有無に関わらず、住民がともに地域活動に参加し、理解を深め合える環境づくりに努めましょう。

津市社協

○障がいのある人の社会参加の場やきっかけづくりに努めます。
○障がいのある人も参加しやすいふれあい・いきいきサロンが増えるよう、周知・啓発に努めます。

● 地域の取り組み提案 ●

提案①

障がいがあっても参加し ⇒ 地域の祭りやイベントなどにおいて、障がいのある人も参画し、誰もが参加しやすい行事にしていける取り組み
 やすい行事の開催

● 津市社協の主な取り組み ●

施策	取り組み内容
障がい者団体と地域をつなぐコーディネート機能の強化	障がい者団体と地域をつなぎ、社会参加の場やきっかけづくりを行うコーディネート機能を強化します。
ふれあい・いきいきサロン事業	障がいがあっても気軽に参加し、レクリエーションなどを通して、仲間づくりや生きがいづくりに取り組めるふれあい・いきいきサロンを推進します。
障がいのある人がつくる製品の普及促進	障がいのある人たちがつくる食品や工芸品、芸術作品等を紹介・販売する機会や場づくりを促進します。



赤い羽根共同募金運動

●基本方針5●

生活上の課題を解決できる地域

社会構造が変化するなかで、引きこもりや生活困窮者、認知症の人、一人暮らし高齢者の増加、また、頻発する自然災害への対応等、さまざまな課題があります。すべての住民が地域で安心して暮らしていくための取り組みを進めていきます。

活動方針（1）

住民の声を聞き、暮らしを支えるしくみづくり

～さまざまな生活課題を抱える人の自立を支援しましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・隣近所とのつながりが薄く、住民の顔がみえにくい地域があります。
- ・困りごとを抱えている人に気づき、相談等に対応するしくみづくりが求められています。
- ・一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の介護が課題になっている地域があります。
- ・外国人居住者が多く、地域との連携や交流が難しいという意見があります。
- ・見守りの必要な認知症の人が多くなっています。

②アンケート調査から

- ・困ったときの相談先が分からない人がいます。
- ・困ったときの相談先について、「相談する人がいない」「相談しない」などの回答が一定数ある状況にあります。
- ・福祉情報について、「十分に届いていない」人が3割程度あります。
- ・近所付き合いについて、消極的な意見が一定数みられます。
- ・これからの地域づくりで重点を置くべきこととして「気軽に相談できる人、集まれる場の充実」が最も多くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・近年、日常的な金銭管理に困る高齢者や障がいのある人の相談が増加しており、まだまだニーズが潜在していると考えられます。
- ・一人暮らし高齢者の課題として、金銭管理の不安や、親族以外の立ち入りが困難なケースなどがあります。
- ・引きこもりの長期化が進み、就労支援までたどり着かないケースが多くなっています。また、地域の人と関わるのが難しいという現状があります。

- ・地域における孤立について、情報は入ってきてても、緊急性が低い（生活はできている）場合にはプライベートの問題があり、立ち入りが難しい状況にあります。
- ・発達障がいのある人について、就労先の仕事が合わなかったり、地域で孤立してしまうケースも多くなっています。
- ・インターネットなどに依存することによって、人と人とのつながる力が低下し、孤立につながる可能性のあることが問題になっています。

●方向性●

地域で困っている人や孤立している人が、地域とのつながりをもちながら、安心して自立した暮らしを営めるよう支援を充実します。

●それぞれの役割●

住民一人ひとり

- 近隣の住民の変化に気づくことができるよう、日頃から声かけなどコミュニケーションに努めましょう。
- 向こう三軒両隣で支えあう意識をもちましょう。
- 地域で困っている人や孤立している人がサロンなど地域の集いの場でのつながりがもてるよう、声をかけてみましょう。

地 域

- 地域における見守り活動の体制づくりを進めましょう。
- 地域で困っている人や孤立している人に対して、親身になって相談に乗れる関係をつくりましょう。

津市社協

- 住民への支援活動を充実し、さまざまな課題をもつ住民の支援に努めます。
- 専門機関と連携し、自立に向けた相談や支援を行います。
- 住民の困りごとについて、関係機関が情報を共有する場づくりに努めます。
- 職員の専門スキルの向上を含めた人材育成を進めます。

● 地域の取り組み提案 ●

提案① お互いさまの関係づくり	⇒	地域で孤立する人のないよう、向こう三軒両隣で気をかけ、あいさつ、声かけなどによる日常的な交流を通した、住民同士の顔の見える、また、支えあえる関係づくり
提案② 地域見守り隊活動	⇒	民児協や自治会との連携により、引きこもりや認知症の人等の見守りを行うとともに、関係機関への情報提供を行う取り組み

● 津市社協の主な取り組み ●

施策	取り組み内容
支援体制の充実	引きこもりや生活困窮者等、制度の狭間で困っている人や、複数の福祉課題の解決のため、「個別支援」「地域支援」「地域ネットワークづくり」などに対応できる支援体制の充実を図ります。
介護サービス事業	心身の健康状態、生活環境の変化等があっても、住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、多種多様な関係機関や近隣住民等と連携・情報共有を図り、高齢者の生活を支援します。
生活困窮者自立相談支援事業	生活困窮者が抱える多様で複合的な課題について相談者と一緒に考え、関係機関と連携を図りながら、自立に向けて包括的に支援を行います。
生活困窮者家計改善支援事業	生活困窮者が抱える家計の課題について相談者と一緒に考え、関係機関と連携を図りながら、相談者の家計を管理する意欲や力を高めて、早期の生活再生を図ります。
日常生活自立支援事業	認知症、知的障がい、精神障がいなどで日常生活の判断に不安のある人が、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理、書類等の預かりサービスを利用することを通じ、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう支援をします。
成年後見サポートセンター事業	家庭裁判所や関係機関との連携を図りながら、認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が十分でない人が、住み慣れた地域で安心して暮らせるように、成年後見制度の利用を支援し、その人の権利を擁護できる相談支援体制づくりに努めます。

施策	取り組み内容
生活福祉資金貸付事業	低所得者世帯等が抱える一時的な困窮状態という課題に対して、県社協・津市・民児協等の関係機関と連携しながら資金の貸付と必要な相談援助を行い、安定した生活が送れるように支援します。
心配ごと相談事業	日常生活での困りごとから複雑多様化する法律的な相談まで、専門職（弁護士、司法書士、行政書士）への相談により、さまざまな悩みごとの解決に向けての支援の充実に努めます。
職員のスキルアップ研修	職員の専門スキル向上のための研修を充実します。

● 目指す成果指標 ●

指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
日常生活自立支援事業利用者数	200人	250人	280人	310人	340人	370人
成年後見サポートセンター相談援助件数	201件	240件	280件	320件	360件	400件



津市社協職員専門研修



活動方針（2）

災害時支援体制の構築・強化

～地域の受援力を高めるとともに、災害時の支援体制を築きましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・地震による津波への対応等、沿岸地域において災害への不安が大きい状況です。
- ・災害時要支援者の支援体制の強化が求められています。
- ・災害時の避難場所について、緊急性に配慮した避難経路の確保が求められています。
- ・土砂災害等の危険が多い山間部の地域において、防災体制のさらなる強化が求められています。

②アンケート調査から

- ・ボランティア活動に興味がある人では、うち3割強が「災害ボランティアに関する活動」を行ってみたいと回答しています。
- ・津市社協の災害ボランティア事業に期待することとしては、「災害ボランティアの育成・支援」という意見が最も多くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・災害時要支援者の状況等について、民生委員・児童委員や自治会長が情報を共有し、有事の支援方法等について相談を進める必要があります。

●方向性●

地域資源・人材の確保や災害時でも助けあえる体制づくり、災害時要支援者の把握、災害ボランティア制度等の活用による地域の受援力（ボランティアの援助を受け入れる力）の強化等を進め、災害時に備えます。



●それぞれの役割●

住民一人
ひとり

○災害ボランティア活動への理解を深めましょう。

○災害時の避難場所や避難経路を十分に把握し、家族や向こう三軒両隣で情報を共有するなど、日頃から準備に努めましょう。

地 域

○日頃から、災害時に配慮が必要な人を把握し、災害時に迅速な行動に移れるよう準備しておきましょう。

○災害ボランティアの受け入れを想定した取り組みを進め、地域の受援力を高めましょう。

津市社協

○住民の災害ボランティア活動に対する意識を高めるとともに、地域の受援力の強化に努めます。

○災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を行い、職員が災害時に即した対応ができる体制づくりを進めます。

●地域の取り組み提案●

提案①

災害ボランティア受け入れ体制の充実

⇒

災害ボランティアについて学び、災害発生時にボランティアを受け入れることができる準備を整えることにより地域の受援力の向上を図る取り組み

提案②

災害時助けあいマップの作成

⇒

日頃から災害時に備えて、要支援者の把握や避難場所等の把握に努め、有事に対応できる地域の災害時助けあいマップの作成を推進

提案③

地域防災訓練

⇒

災害を想定した地域における防災訓練を実施し、住民への避難の仕方等を啓発



災害ボランティアセンター運営訓練

●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
災害ボランティアセンター及び災害ボランティア活動の周知・啓発	住民を対象とした研修会の開催や啓発をすることにより、災害ボランティア活動に対する意識を高めるとともに、地域の受援力の拡充を図ります。
災害ボランティアの育成・登録	災害ボランティアの育成を図るとともに、災害ボランティアの事前登録制度の普及に努めます。
災害ボランティアセンターの設置・運営	被災時には、津市と連携し津市災害ボランティアセンターを設置・運営します。
災害時における地域の助けあいの強化	災害時において、住民や災害ボランティアと協力し、要支援者等への安否確認や福祉避難所の運営支援を行います。
被災地支援事業	被災地に設置された災害ボランティアセンターとのコーディネートを行い、災害ボランティアを派遣することによって、被災地の復旧・復興の支援活動を行います。また、活動を通じて得た経験を津市内の活動に生かします。

●目指す成果指標●

指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
災害ボランティア事前登録団体・登録者数	3団体 61人	4団体 80人	5団体 90人	6団体 100人	7団体 110人	8団体 120人



●基本方針6●

住民が尊重し合い、認め合う地域

子ども、若者、子育て世代、高齢者、障がいのある人等、住民の誰もが主体性を尊重し合い、認め合う地域づくりを目指します。誰もがいきいきと輝き、充実した人生を実感できる、支えあいと絆のある地域づくりに取り組みます。

活動方針（1）

支えあい、絆のある地域づくり

～住民同士が互いに尊重し合い、ともに生きる意識をもちましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・世代間交流が少ない地域が多くなっています。
- ・新しい住宅地が増え、地区全体でのつながりが希薄化している地域があります。
- ・住民同士のつながりが薄く、情報共有が難しいという意見があります。

②アンケート調査から

- ・地域で暮らしづらい理由として「近所とのつながりがない」と回答した住民が最も多くなっています。
- ・福祉に関心がある人に、福祉からイメージすることを尋ねたところ「支えあい」という回答が最も多くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・地域のなかでも、隣近所のことを知らないため、隣人と距離を置いている人が多いです。
- ・認め合う関係をつくるためには、まず、地域のことや地域に住んでいる人等、互いに知り合うことが大切です。
- ・地域活動をされている人が、地域のなかで十分に認知されていない状況があります。
- ・地域の見守りを中心的に行う民生委員・児童委員のサポート体制が必要です。
- ・犯罪や非行をした人も再び地域社会の一員として生活できるよう、認め合える地域社会の重要性について、一層の啓発が必要です。

●方向性●

住民同士が互いに知り合い、互いの生き方や考え方を尊重し、ともに生きていくという意識を育むことができる地域づくりに取り組みます。

●それぞれの役割●

住民一人ひと	○互いの主体的な生き方や考え方を尊重し合いましょう。 ○世代間交流や地域活動に気軽に参加してみましょう。
地 域	○あらゆる人の違いを尊重し、認め合うことで偏見や差別のない地域づくりを進めましょう。 ○子どもから高齢者までふれあえる機会づくりに努めましょう。
津市社協	○地域福祉について学ぶことができる機会をつくり、住民が互いの個性や生き方を知り合い、認め合うことができる環境づくりを推進します。 ○差別や偏見のない地域づくりに向けて、住民の理解のための啓発に努めます。

●地域の取り組み提案●

提案① 住民が互いに知り合い、認め合える地域づくり	⇒	お祭りなど地域行事への積極的な参加呼びかけや、地域でのあいさつ・声かけ運動の推進等による、住民が互いに知り合うきっかけづくり
提案② 世代間交流事業	⇒	世代間の交流を進めるためのニュースポーツ大会やバーベキュー、地域の歴史や習慣を伝える機会の企画・実行
提案③ 福祉委員の活動	⇒	民生委員・児童委員と連携・相談・協働して地域の福祉活動を推進する役割を担う福祉委員による、身近な地域の困りごとの解決に向けた活動

● 津市社協の主な取り組み ●

施策	取り組み内容
福祉啓発事業	従来の啓発活動と併せて、各地域での福祉に関する出前講座の開催を通じ、住民の地域福祉活動に対する意識の醸成を図ります。
地域福祉教育推進事業	地域において、福祉体験講座や交流会等を通じて、住民の地域福祉についての意識の醸成に努めます。
社会福祉大会	社会福祉事業に献身された個人や団体への顕彰を行います。また、講演等を通じて、住民の福祉に関する意識の啓発を図ります。
サロン活動への支援	世代を問わず、互いに知り合い交流できる場所である、ふれあい・いきいきサロンの新規立ち上げや運営等を支援します。



津市社会福祉大会



民生委員制度創設100周年記念行事

活動方針（2）

住民主体による地域福祉の推進

～誰もが生きがいを感じながら、安心して暮らしていける

地域福祉コミュニティを築きましょう～

●現状と課題●

①地区福祉懇談会から

- ・自治会に属していない世帯が増加しています。
- ・新しい住民が増加している地域では、地域の伝統や文化を共有することが難しく、つながりを形成しづらいという意見があります。
- ・福祉関係団体の会員数の減少や担い手不足により、将来の活動が難しくなることが危惧されています。
- ・地域ごとの違いや良いところを十分生かしきれていないという意見があります。
- ・地区によって課題が異なるため、地区の課題を地域全体の課題として捉えにくいという意見があります。

②アンケート調査から

- ・福祉に関心のない人が2割弱おり、また、福祉講座への参加を希望しない人が4割いる結果となっています。
- ・福祉講座に参加したい人が希望する講座としては「地域（ふれあい）活動」に関する講座が最も多くなっています。

③ワーキンググループ、作業部会等から

- ・地域に関心をもつまでの余裕がなく、地域福祉についても自分のこととして考えられない人が多くなっています。
- ・運営状況に課題を抱える地域福祉団体が多くなっています。

●方向性●

地域福祉活動への参加の機会や情報提供の充実等により、すべての住民が生きがいをもって安心して暮らせる地域福祉コミュニティの構築を進めます。

●それぞれの役割●

住民一人
ひとり

- 地区社協をはじめとした地域活動や福祉講座に気軽に参加してみましょう。
- 住民がともに地域福祉コミュニティの構築のために、協力しましょう。

地 域

- 誰もが安心していきいきと暮らせるよう、地域行事の継続・活性化等を通じて交流を深めることで、それぞれの住民が役割をもち、互いに尊重し、認め合い、支えあいを実感できる地域福祉コミュニティの形成に努めましょう。
- 地区福祉懇談会の開催等により、住民同士が互いの意見を共有し、地域の気になるところを把握し、よいところを生かせる、建設的で魅力ある地域づくりを進めましょう。

津市社協

- 生活支援コーディネーターによる支援体制を充実・強化します。
- 各地域で地区福祉懇談会の開催を支援します。
- 地域福祉活動を担う、住民ボランティア人材の確保と育成に努めます。
- 地域福祉コミュニティの形成に向け、引き続き社協事業を推進するとともに、地域や福祉団体等の活動支援を充実します。

●地域の取り組み提案●

提案①

地域福祉活動の活性化

⇒

地域行事の継続・活性化や世代間交流等により、地域に根ざした人材の育成に努め、長期的な視点に立った地域福祉活動の活性化を図る取り組み

提案②

地区福祉懇談会の開催

⇒

地区が目指す地域像の実現に向けて地域のよいところや気になるところなどについて、住民が主体となった意見交換の場として、また、地区別福祉プランの見直しと推進のために地区福祉懇談会を開催

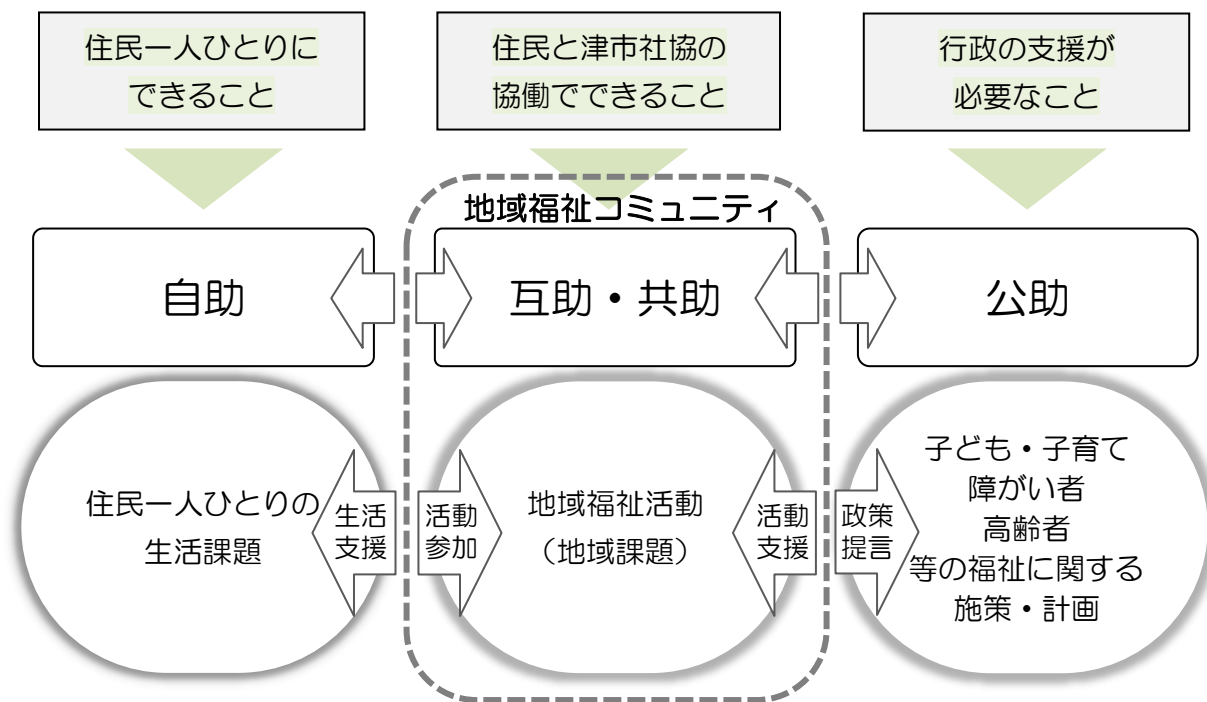
●津市社協の主な取り組み●

施策	取り組み内容
地区福祉懇談会の開催支援	住民が主体となって意見交換を行い、地区別福祉プランの見直しと推進を行う地区福祉懇談会の開催を支援します。
生活支援コーディネーターによる支援体制の強化	地域におけるニーズを把握し、ふれあい・いきいきサロンや見守り活動等を通じて、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進します。
ボランティアセンター運営事業	ボランティア講座やボランティア交流会等の開催により、福祉の担い手となるボランティアを育成するとともに、ボランティア情報誌の発行等により、ボランティア活動の情報提供を行います。
地区社会福祉協議会支援	地区社協が地域のさまざまな関係団体・機関と連携・協働して、地域の課題解決に向けた活動を行えるよう、情報提供や助成等の支援をします。また、地区社協支援担当職員による人的支援を強化します。
民生委員児童委員協議会支援	民児協の活動目的、使命の実現に寄与するとともに、その活動を通して地域福祉に関わる課題を相互に共有し、事業推進が図られるように支援します。
地域福祉団体等支援	地域の福祉団体等の地域福祉活動に支援・協力し、福祉団体等と連携・協働しながら、地域福祉の推進を図ります。
赤い羽根共同募金運動への協力	津市内の地域福祉事業や県内の社会福祉施設・福祉団体へ助成されるほか、大規模災害時に備え積み立てられる赤い羽根共同募金運動への協力を推進します。

●目指す成果指標●

指標名	実績	目標				
	2017年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ボランティア登録人数	14,367人	14,600人	14,600人	14,800人	15,000人	15,000人

「自助」「互助」「共助」「公助」一体の地域福祉コミュニティのイメージ



※「自助」「互助・共助」「公助」の考え方

自助：自分の力や家族等の身近な人の支えにより住み慣れた地域で暮らすために、介護予防活動に取り組んだり、健康維持のために健（検）診を受けたり、病気になったら受診をするなど、自発的に生活課題を解決する力

互助・共助：「互助」とは、隣近所等の個人的な関係性の中で支えあう活動。例えば、同じ地域に住む人それぞれが持つ生活課題を互いに解決し合う、身近な人と人のつながりによる活動や取り組み。「共助」とは、地域住民が、地区社協や自治会単位でのボランティアによる見守りサービスなどの組織的に行われる支えあい活動や、社会福祉事業者等と連携・協力して、福祉課題を解決するシステム化された相互扶助活動

公助：行政が提供する保健・医療・福祉、その他関連する施策に基づく公的なサービスや支援

